

地域公共交通網形成計画（素案）に対する意見等

資料1

No	頁	項目	意見等		意見に対する回答	頁	項目
1	計画全体	※福祉バスとコミュニティバスの関連について	福祉バスとコミュニティバスの関連が整理されていないため、福祉バスの課題をどうコミュニティバスに生かすかの整理がなされていない。	運輸支局	ご意見のとおり、福祉バスとコミュニティバスの関連性の整理が不十分でした。福祉バスの課題をコミュニティバスに引き継ぎ、どう改善を図るかについては、新たな項目も追加し整理しながら以下のNo. 2～No. 6において回答します。		
			「福祉バス」と「コミュニティバス」について、それぞれの運行形態や、福祉バスのどこに問題があったために「コミュニティバス」としての運行に変更となったのか、これまでの課題をコミュニティバスの運行によりどう解決しようとしているのかわからない。 「福祉バス」、「コミュニティバス」については、別途項目立てをしての記載が必要。	運輸局			
2	P 2 3 ~ 2 4	2-5 公共交通の現状 (1) 運行状況 ④コミュニティバス (旧福祉バス)	コミュニティバスの現状把握については、福祉バスからなぜ変えたのか、どこを変更したかの記載が必要。	運輸支局	ご意見のとおり、「福祉バスからコミュニティバスに移行する経緯」や「サービスの相違点」の項目を追加し、福祉バスの課題、移行した経緯、それぞれの運行形態、また、運行日数や経由地の拡大などの変更点を記載します。	P 2 3 ~ 2 6	④コミュニティバス (旧福祉バス)
3	P 2 9 ~ 3 3	2-5 公共交通の現状 (2) 利用状況 ③福祉バス（現コミュニティバス）	③福祉バスの現状分析ですが、これをコミュニティバスにどのように引き継ぐのか。どのようにこの分析を生かしていくのかの記載が必要。	運輸支局	③は名称をコミュニティバス（旧福祉バス）とします。路線によって利用状況にばらつきがあるなどの福祉バスの問題点を整理し、コミュニティバスの課題へ引き継ぐことや、新たに生じる課題については、今後利用状況や利用者の意向を把握しながら確認することを記載します。	P 3 2 ~ 3 7	③コミュニティバス (旧福祉バス)
4	P 4 2	4-2 各交通機関に対する意向 (1) 福祉バス利用者が感じている改善点	コミュニティバスとの関連付けが必要ではないか。	運輸支局	ご意見のとおり、コミュニティバスの改善要望と捉えることを追記し関連付けします。	P 4 6	(2) 福祉バスに対する意向

No	頁	項目	意見等		意見に対する回答	頁	項目
5	P 5 6	5-5 公共交通利用者のニーズへの対応の観点からの課題 (1) 各交通機関のサービスの向上	(1) 2段目の「福祉バス利用者からは」の記載の仕方は、コミュニティバスへ移行していることを前提で作成されている網形成計画なので、記載方法に工夫が必要ではないか。 「コミュニティバス」でひとつの項目を設定し、どのような問題が、福祉バスの時からあり、市民アンケートからも問題点を整理し、今後、どのようにコミュニティバスを検証し、見直していくかを含めて記載が必要。 P 5 8の(2)も関連あり。	運輸支局	5-3にコミュニティバスに対する市民意向等への対応を追加します。 福祉バス利用者からの増便やルート見直しの要望、また、今後利用者ニーズを把握しながらサービス改善を行うことを記載します。 また関連として、P 6 2の(2)のコミュニティバス(福祉バス)ニーズに応じたサービス水準の見直しで財政負担の課題などの補強記載をしています。	P 5 9 P 6 2	(3) コミュニティバスに対する市民意向等への対応 (2) コミュニティバス(旧福祉バス)のニーズに応じたサービス水準の見直し
6	P 5 8	(2) コミュニティバスのニーズに応じたサービス水準への見直し		運輸支局	路線によって利用状況にばらつきがあるなどの福祉バスの課題のほか、運行日数などを拡大するために生じるコミュニティバスの財政的負担の課題を記載します。	P 6 2	5-4(2) コミュニティバスのニーズに応じたサービス水準への見直し
7	P 1 8	2-4 市民などの日常生活の移動実態 (5) 観光	道の駅みやまの市外来訪者移動手段の調査結果が掲載されているが、車での来訪を前提とした道の駅来訪者の移動手段が車というのは当然であり、これをもってみやま市の観光客すべてが公共交通で来訪したという結論を導き出すのは無理があるのではないか。 (関連: P 5 5)	委員	交通手段についての説明は観光客すべてを指しているものではなく、「道の駅みやま」の来訪者について記載しているものですが、ご意見に基づき他の観光に関する状況についても記載します。	P 1 8	(5) 観光
8	P 1 9	2-5 公共交通の現状 (1) 運行状況	図中の、その他路線バス については説明が必要ではないか。	運輸支局	その他路線バスについては、高速バス、柳川市コミュニティバス、大牟田市内路線バスに変更します。	P 1 9	(1) 運行状況
9	P 2 0	2-5 公共交通の現状 (1) 運行状況 ① J R 鹿児島本線	3月に大幅なダイヤ改正が予定されているが、その内容の反映が必要ではないか。	委員	3月改正予定のダイヤに修正します。	P 2 0	① J R 鹿児島本線
10	P 2 4	2-5 公共交通の現状 ⑤ その他の交通資源	スクールバスの運行状況等についても必要ではないか。みやま市の計画ではスクールバスの見直しも入っていたと思う。	運輸支局	ご意見のとおり、スクールバスの運行状況についても記載します。	P 2 7	⑤ その他の交通資源
11	P 2 4	2-5 公共交通の現状 ⑤ その他の交通資源	目標を達成するための施策として「⑳自動運転技術の導入の検討」を導き出すために、2月に実施予定の自動運転実証実験の概要を記載してはどうか。	委員	ご意見のとおり、自動運転実証実験の概要を記載します。施策⑳において、社会実験の効果や課題を検証するなかで、実現性の検討をおこなうこととしています。	P 2 7	⑤ その他の交通資源

No	頁	項目	意見等		意見に対する回答	頁	項目
12	P 2 7	2-5 公共交通の現状 (2) 利用状況 ②路線バス	「図 瀬高柳川線のバス停別日当たり利用者数」について、バス停「警察署前」「江曲」は、西鉄柳川発のスクール便(1日1本運行)であるため、削除いただきたい。 (※瀬高駅前発、かんぽの宿柳川発では、通過しないバス停)	委員	ご意見に基づき修正します。	P 3 0	②路線バス 「図 瀬高柳川線のバス停別日当たり利用者数」
13	P 3 2	2-5 公共交通の現状 (2) 利用状況 ③福祉バス(現コミュニティバス)	「図 福祉バス利用者の年齢構成」については、65歳未満と75歳以上の人数と割合が横並びになっており、見づらいので改行等した方がよい。 「65歳未満 46,11.3%」、「75歳以上 249,61.3%」	委員	ご意見のとおり修正するとともに、見やすくするためにパーセントのみの表示とします。	P 3 5	③福祉バス(現コミュニティバス) 図 福祉バス利用者の年齢構成
14	P 3 3	2-5 公共交通の現状 (1) 利用状況 ③福祉バス(現コミュニティバス)	「表 福祉バスの路線別の利用特性」については、利用特性の列を4分割してはどうか。 (主な利用者、利用頻度、主な外出目的、主な外出先)	委員	ご意見のとおり修正します。	P 3 6	③福祉バス(現コミュニティバス) 表 福祉バスの路線別の利用特性
15	P 3 4	2-5 公共交通の現状 (3) 財政負担状況	有料のコミュニティバス化について、財政負担状況の観点から記載が必要ではないか。	運輸支局	財政負担状況として、運行開始時におけるコミュニティバスの運行収支見込を記載します。	P 3 8 ~ 3 9	(3) 財政負担状況
16	P 3 7	3-2 公共交通に求められる役割	上位計画の文面の掲載をしないのであれば、該当ページの掲載をした方がわかりやすいのではないか。	運輸支局	ご意見のとおり、各計画の掲載ページを記載します	P 4 2	3-2 公共交通に求められる役割
17	P 4 2	4-2 各交通機関に対する意向 (1) 路線バス利用者が感じている改善点	「主に山門高校の通学に路線バスを利用している市外からの来訪者からは、「バス待ち環境」、「便数の見直し」、「情報の充実」などについて改善が望まれています。」との記載があるが、「路線バスの乗りこみ調査時のヒアリングによると」といった調査もとを記載してはどうか。 山門高校への通学者の意見のみ特筆して記載されているが、それ以外の利用者(通勤、買い物、通院)からは、要望がでなかったのか。	委員	ご意見のとおり「路線バス利用者アンケート調査によると」という記述を挿入します。 また、通勤、買物、通院ごとの個別の記載はしていませんが、利用者の全体的な改善要望は図に示しています。	P 4 6	(1) 路線バスに対する意向
18	P 4 3	4-2 各交通機関に対する意向 (4) タクシー利用者が感じている改善点	タクシー利用者へのアンケートは実施していないため、事業者ヒアリングとなったのか。市民アンケート等から利用者目線の問題点の整理はないのか。	運輸局 運輸支局	タクシー利用者へのアンケートは実施していませんが、市民アンケートから寄せられたタクシーに関する意見を記載し、表題をタクシーに対する意向とします。あわせて、(1)~(3)も路線バスに対する意向、福祉バスに対する意向、鉄道に対する意向とします。	P 4 6 ~ 4 7	4-2 各交通機関に対する意向

No	頁	項目	意見等		意見に対する回答	頁	項目
19	P 4 3	4-2 各交通機関に対する意向 (4) タクシー利用者が感じている改善点	「運賃面での支援等を求める意見が多く見られる」とあるが、これに相応する施策は不要か。 不要であれば、どこかに説明があるのではないか。	委員	運賃面での支援は、運転免許証を自主返納された方に対する施策⑩「運転免許証自主返納支援制度」により引き続き支援を行います。 また、本項目は交通事業者ヒアリングからの内容を記載していましたが、市民アンケートからの「タクシーに対する意向」として記載内容を変更します。	P 4 7	(4) タクシーに対する意向
20	P 5 2	5-2 市民の移動特性への対応の観点からの課題 (4) 市域を越える日常的な外出への対応 ◆の2つ目	「市内の移動手段の充実により市内消費の促進が求められています」のであれば、P 7 3④の隣接市コミュニティ交通接続（大牟田市、柳川市）の施策と矛盾するのではないか。 逆に接続しないほうがいいことになるのではないか。	委員	内容を整理し、(4)では市外の移動への対応について記載し、(2)で地域内の交通サービスの充実について追記します。	P 5 3 P 5 5	(2) 各地域の買い物・通院実態に見合った移動手段の確保 (4) 市域を越える日常的な外出への対応
21	P 5 2	(4) 市域を越える日常的な外出への対応 ◆の2つ目	買物についての分析や対応方針のみの記載となっているが、通院についても分析や対応方針を記載してはどうか。	委員	ご意見のとおり修正します。	P 5 5	(4) 市域を越える日常的な外出への対応
22	P 5 4	5-3 市民の公共交通に対する評価・考えの観点からの課題 (1) 市民の公共交通に対する関心の向上 ◆の1つ目	「公共交通の必要を感じています」→「公共交通の必要性を感じています」ではないか。	委員	ご意見のとおり修正します。	P 5 7	(1) 市民の公共交通に対する関心の向上
23	P 5 5	5-4 来街者のニーズへの対応の観点からの課題 (1) 来訪者への公共交通の利用促進	オルレ参加者が利用するための公共交通充実の必要性について触れられていないが、問題ないか。	委員	オルレ参加者に対する公共交通として、スタート及びゴール地点にコミュニティバスを接続しましたが、今後の充実の必要性について記載します。	P 6 0	(1) 来訪者への公共交通の利用促進
24	P 5 5	5-4 来街者のニーズへの対応の観点からの課題 (1) 来訪者への公共交通の利用促進	「道の駅みやま」来訪者アンケート結果だけで、みやま市への観光客の動向全体を判断するのは無理があるのではないか。他の観光イベントやJR九州ウォーキング参加者の動向等も加味する必要があるのではないか。	委員	ご意見のとおりJRウォークなどの他のイベントについても記載し修正します。	P 6 0	(1) 来訪者への公共交通の利用促進

No	頁	項目	意見等		意見に対する回答	頁	項目
25	P 5 5	5-4 来街者のニーズへの対応の観点からの課題 (1) 来訪者への公共交通の利用促進	なぜ、ここで「道の駅」が対象となるのか説明が必要ではないか。	運輸支局	本市の観光客の多くを占める「道の駅」来訪者について記載しています。併せて、JRウォークなどの他のイベントについても追記しました。	P 6 0	(1) 来訪者への公共交通の利用促進
26	P 5 6	5-5 公共交通利用者のニーズへの対応の観点からの課題 (1) 各交通機関のサービスの向上	この項目は、前段の流れで各交通機関全体を取りまとめているのだが、この記載方法で適当か。まとめ方を工夫すべき。 駅へのアクセスへの改善要望の表の数字が、P 4 3と違う。	運輸局 運輸支局	5-3と5-5を統合し、5-3「市民の公共交通に対する評価・意向の観点からの課題」に修正します。 5-3(2)として「鉄道、路線バス、タクシーに対する市民意向等への対応」を、(3)として「コミュニティバスに対する市民意向等への対応」を記載します。 5-6 運行持続性の確保の観点からの課題を5-5に変更します。 また、P 4 7の表を修正しました。	P 5 7 ~ 6 0 P 4 7	5-3 市民の公共交通に対する評価・意向の観点からの課題 (3) 鉄道に対する意向
27	P 5 9	表 交通事業者が運行面で抱える課題	記載内容が課題ではなく要望になっているのではないか。	委員	「(4)関係者間の協働体制の構築」の表中の表現を修正します。	P 6 3	(4) 関係者間の協働体制の構築
28	P 5 9	(3) 運転手の確保表の「路線バス事業者の課題」	「また、きつい仕事、土日が休めない、など」については、表現を改めていただきたい。	委員	ご意見のとおり修正します。	P 6 3	(3) 運転手の確保表「路線バス事業者の課題」
29	P 5 9	5-5 公共交通利用者からのニーズへの対応の観点からの課題 (3) 運転手の確保	「運転手の確保」という項目を問題点として整理し、自治体として事業に入れていく方向付けは非常にいいと思いますが、自治体の実施事業として取り組むことについては大丈夫なのか。	運輸支局	P 9 3 施策⑱にお示ししていますが、市としましては、側面からの支援を行うこととします。	P 6 3	(3) 運転手の確保
30	P 4 5 ~ 5 9	5 公共交通の課題	P 4 5 および P 4 6 以降については、前段 (P 7 ~ 4 4) の問題点や課題を项目的に整理し、実施施策へつなげるためのものと考えるが、前段の現状 (問題点) 把握からの関連が取れておらずわかりづらい。	運輸局 運輸支局	地域や公共交通の現状、まちづくりの方向性、市民の意向などから整理した課題について、関連性が分かるようにチャート図を追加します。	P 6 4	5-6 みやま市における公共交通の課題
31	P 6 1 ~ 6 3	6-1 公共交通のあり方 6-2 交通ネットワークの将来イメージ 6-3 地域公共交通の基本方針	課題と公共交通の問題点・課題の結びつけは、もう少し詳しく標記できないか。基本方針の説明で補完することも可能ではないか。 各問題点・課題と、基本方針との結びつきがわかりにくいので記載に工夫が必要。	運輸局 運輸支局	ご意見のとおり基本方針の説明を補強します。 また、地域や公共交通の現状、まちづくりの方向性、市民の意向などから整理した課題について、関連性が分かるようにチャート図を追加します。	P 6 4 P 6 7	5-6 みやま市における公共交通の課題 6-3 地域公共交通の基本方針

No	頁	項目	意見等		意見に対する回答	頁	項目
32	P 6 4	6-4 計画の目標及び計画の達成状況を測る指標	<p>目標について、実施事業の項目と目標を比較した際、あまりにも大きく（20の実施事業を4つの目標で整理）まとめているので、目標と実施施策と評価指標の関連づけがなされているか判断が難しい。実施事業から目標の再検討はできないか。</p> <p>イベントの車内広告回数が数値目標というのはいかがなものか。一方、コミュニティバスの全体の利用者数も必要ではないか。</p> <p>また、企画切符についてはどのようなものを想定しているのか。</p>	運輸支局	<p>評価指標については一部修正をします。</p> <p>「企画券の企画数」及び「イベントの周知件数」の評価指標を削除し、「観光資源最寄りバス停の利用者数」と「公共交通の利活用に資する各種ソフト事業の実施数」に変更します。</p> <p>また、全体のコミュニティバス利用者数に評価指標を変更します。便当たりの利用者数は70ページに記載します。</p> <p>企画券は、P88の施策⑭に記載しているような内容を想定しています。</p>	P 6 8 P 7 0	6-4 計画の目標及び計画の達成状況を測る指標 指標③ コミュニティバスの年間利用者数
33	P 6 4	6-4 計画の目標及び計画の達成状況を測る指標	<p>網形成計画においては、基本方針に沿った定性的な「目標」、具体的に評価の指標となる定量的な「数値目標（評価指標）」を設定し、その目標を達成するための実施事業と実施主体について定めます。</p> <p>本計画案では、20の事業を実施することとしています。各事業と設定した評価指標との関連がとれていないため、実施される事業の効果がその後の評価に結びつかないものとなっていないか。</p> <p>実施事業の中でその効果を数値化できるものについては、評価指標として設定し、これを実現するための実施事業として整理されてはかがか。</p>	運輸局	<p>評価指標については一部修正をします。</p> <p>企画券の企画数及びイベントの周知件数の評価指標を削除し、「観光資源最寄りバス停の利用者数」と「公共交通の利活用に資する各種ソフト事業の実施数」を追加します。</p> <p>また、全体のコミュニティバス利用者数を評価指標に追加します。</p>	P 6 8	6-4 計画の目標及び計画の達成状況を測る指標
34	P 6 8	6-4 計画の目標及び計画の達成状況を測る指標 指標⑥：公共交通車内等におけるまちづくりイベントの周知件数	<p>「公共交通車内」とは、鉄道、路線バス、コミバス、タクシーのいずれを指すのか。</p> <p>また、車内へのイベント掲示がまちづくりにおける公共交通の活用の活性化につながるのか疑問。むしろ、公共交通を活用したイベントを開催すべきではないか。</p>	委員	<p>「公共交通車内」とは、鉄道、路線バス、コミュニティバス、タクシーのいずれも含まれますが、指標⑤と⑥は検討し修正します。No.33のとおり、指標⑤を観光資源最寄りバス停の利用者数、⑥を公共交通の利活用に資する各種ソフト事業の実施数とします。</p>	P 7 1	目標3 まちづくりにおける公共交通の活用の活性化
35	P 6 8	6-4 計画の目標及び計画の達成状況を測る指標 指標⑤：イベントと連携した企画券の企画数 指標⑥：公共交通車内等におけるまちづくりイベントの周知件数	<p>イベント案内のチラシに、コミバスの時刻表を掲載して、バス利用を促してはどうか。</p>	委員	<p>ご意見の取り組みは、施策⑫において、チラシなど可能な限り時刻表を掲載することで利用促進を図っていきます。</p>	P 8 6	施策⑫ 行政内各部署や各種団体への公共交通PR

No	頁	項目	意見等		意見に対する回答	頁	項目
36	P 6 8	6-4計画の目標及び計画の達成状況を測る指標 指標⑤：イベントと連携した企画券の企画数 指標⑥：公共交通車内等におけるまちづくりイベントの周知件数	コミバスの1、2番ルートについて、筑後船小屋駅および（ホークス試合日は）ベースボールパーク筑後まで延長することを検討してはどうか。	委員	施策①において、市境を超えたルートの延長について検討することとなり、2市での協議が必要となります。まずは、コミュニティバスと市内鉄道駅の結節の充実を図ることによって利便性向上に努めます。	P 7 4 ~ 7 5	施策① 市民の移動ニーズに応じたコミュニティバスのルート・ダイヤの継続的な見直し
37	P 6 9	6-4計画の目標及び計画の達成状況を測る指標 指標⑦：年間財政負担額	説明では財政負担減少となっているが、目標値は同額。	運輸支局	目標値は現況値未満としていますが、具体的な数値に修正します。	P 7 2	指標⑦：年間財政負担額
38	P 7 1 ~ 7 8	7 目標を達成するための施策	全体的に実施事業の内容がうすいと感じる。 P 7 2の①についてもどのような方法で見直していくのか全く記載がないのではと思う。H30年度について、どのような位置付けで考えるかの記載が必要。 今回、現在運行している「福祉バス」を、時間的な余裕等がないため現状の系統を維持して「コミュニティバス」にしたわけだが、今後、アンケート等の手法を使って見直しをしていくことは必須ではないか。 また、自動運転についても、みやま市より実施要望があつての実証実験ですので、記載も必要ではないか。	運輸支局	施策①については、アンケートの実施によるニーズ把握などで見直しを行うなどの記載をし内容を補強します。また、自動運転については、施策⑩において、社会実験の効果や課題を検証するなかで実現性の検討を行っていくこととしています。 なお、施策ごとに「スケジュール」、「実施主体と役割」を記載し、あわせて全体的に内容を精査します。	P 7 4 ~ 9 4	7 目標を達成するための施策
39	P 7 1 ~ 7 8	7 目標を達成するための施策	実施事業については、可能な範囲で具体的な実施内容の記載をお願いします。 施策①や②については、これまでの問題点・課題整理、基本方針、目標等を踏まえての施策としては、記載が足りないのではないかと思います。	運輸局	各施策のごとにスケジュールを記載するとともに、実施主体と役割についても記載をいたします。	P 7 4 ~ 9 4	7 目標を達成するための施策
40	P 7 2	7 目標を達成するための施策 ②路線バスの維持	基本方針Ⅰには「日常生活における」とあるが、写真は観光イベントのポスターである。日常生活なら、買い物、通院、福祉センターでの催し、公民館での講座等ではないか。	委員	市外の外出先へのアクセス性の向上の一つに、路線バスの維持を位置付けています。そのため、市を越えての利用促進を図るという観点から、来訪者を呼び込むための地域資源を活用したイベントのイメージ図を掲載しています。 また、施策名を「路線バスの維持に向けた利用促進策の展開」に変更します。	P 7 6	施策② 路線バスの維持に向けた利用促進策の展開

No	頁	項目	意見等		意見に対する回答	頁	項目
41	P 7 3	7目標を達成するための施策 基本方針Ⅱ-⑤、⑥	似たようなルートのバス路線が複数あるが、どのルートが迷いやすいため、路線名に主な経由地を補足説明する名前を付けてはどうか。 例：2番 清水上庄線（小田・長田・瀬高・本郷経由）	委員	現行の福祉バスの路線名を継承していますが、今後、利用状況や市民ニーズに応じ路線の見直しを行う際に、わかりやすい名称の検討も行います。	P 7 4 ~ 7 5	施策① 市民の移動ニーズに応じたコミュニティバスのルート・ダイヤの継続的な見直し
42	P 7 3	7目標を達成するための施策 基本方針Ⅱ-⑤、⑥	総合時刻表については、主なバス停のみ掲載したダイジェスト版も作ると、市外利用者にもわかりやすい。	委員	ご意見のとおり、来街者への利用促進も図るためのダイジェスト版作成を記載します。	P 7 9	施策⑤ 公共交通マップ及び総合時刻表の作成
43	P 7 6	7目標を達成するための施策 ⑬各種イベント時の運送方法の検討	⑫では公共交通でのアクセス可能な施設・時間帯に開催することを促しているが、⑬は公共交通を利用しない（シャトルバス利用）を促している。 ⑫との整合性を図るなら、公共交通の臨時便運行などを考えるべきではないか。	委員	路線バスやコミュニティバスの時刻表にあわせて、会議やイベントの設定が可能なものは、施策⑫にて利用促進を図ります。 施策⑬については、イベントの場所や性質上、路線バスやコミュニティバスではどうしても対応できない場合の施策として記載しています。 コミュニティバス運行開始直後でもあり、通常便の利用状況の把握や利用促進がまず必要と考え、臨時便について記載はしていませんでした。しかし、施策①とも関連しているため、市民ニーズなどを踏まえながら、臨時便運行の検討を行うこととします。	P 8 7	施策⑬ 各種イベント時の運送方法の検討
44	P 8 0 ~ 8 1	8-1 実施スケジュールと実施主体	実施スケジュールと実施主体の表は、P 7 1の前に持ってきた方がわかりやすいのではないか。	運輸支局	分かりやすくするために、施策ごとに詳細のスケジュールを記載します。	P 7 4 ~ 9 4	7 目標を達成するための施策
45	P 8 3	8-4 評価検証のスケジュール	「公共交通サービス全般に対する満足度」を計画対象期間最終年度に行っても改善のしようがないのでは。少なくとも中間年にもう1回調査をすべきではないか。	委員	原案を修正し、計画期間中に2回実施します。	P 9 9	8-4. 評価検証スケジュール
46	P 8 3	8-4 評価検証のスケジュール	評価指標については再検討するとともに、評価の実施主体やデータの取得方法についても記載してはどうか。	運輸局	評価指標を一部見直すとともに、収集するデータやデータの収集方法などを記載します。	P 9 9	8-4 評価検証のスケジュール
47	計画全体	平成の記載について	平成31年までであるため、西暦にするなど検討されたいかがか。	委員	今年度に策定する他の計画においても、平成31年以降も和暦で記載しています。そのため、和暦の記載とします。		